

資料2

令和2年度 老人福祉センター利用者アンケート結果について

- 1 実施目的 新型コロナウイルス感染拡大防止から老人福祉センター利用が休館中と利用開始後の体調変化、心の変化を調査したもの
- 2 実施期間 ①令和2年3月9日～4月30日 ②令和2年9月3日～11月2日
- 3 調査対象 やすらぎ会館老人福祉センター利用者
- 4 調査方法 電話聞き取り及び来館聞き取り
- 5 調査結果 回答が多数ある場合は主な回答を記載
- 6 調査人数

単位: 枚

	センター休館中電話 聞き取り	センター利用開始後 電話聞き取り	センター利用開始後 来館聞き取り	合計
人数	320	161	48	529

7 まとめ

令和2年3月5日(木)から6月2日(火)までの休館期間中には、体調や精神面、不安要素など電話にて状況を聴き取りながら、話を聴いたり、情報提供の機会を作った。新型コロナウイルス感染症拡大防止からの休館ではあるが、初めての経験となり、利用できないことへ残念だと答える方が多く、また自宅から出かける機会が無くなったことへの苛立ちから、家庭内への影響が出ている声もあり、早期再開の要望が多かった。

老人福祉センターの職員が、電話による聴き取りや情報提供・傾聴を定期的を実施したところ、近所を散歩したり、家で過ごすなど行動が制限されることで、気力の低下が継続し、認知機能や身体機能の低下につながり要介護状態となり、介護保険サービスの利用につながったことを家族から伺うケースもあり、自宅から外へ出かけ、他者と関わる機会の重要性を感じた。

6月3日(水)から制限付きで利用再開後の過ごし方では、家で過ごすことや近所の散歩以外に買い物や趣味の再開などの変化もみられた。また、再開や日常的になりつつある感染予防対策から不安要素も少なくなり、外出機会に対して積極性が高くなったように感じた。

老人福祉センターの利用者を対象とした限定的なアンケートではあるが、外出の機会や他者と会話する機会の重要性が認識できた。